



講師を務めた加藤院長

悩まず相談を

「婦人科の病気」をテーマにした健康づくり講座が10月25日、市民健康づくりセンターで開催され、約50人の市民らが健康に対する意識を高めました。

講座では、加藤レディースクリニック産科・婦人科の加藤充弘院長が講師として登壇。女性ホルモンの働きや感染症など女性特有の病気について講演し、つがる市では子宮頸がん検診の費用が全額助成されていることを紹介しました。加藤院長は「それぞれ年齢・生活状況が異なるため、患者さんと相談してその方に合わせた治療を行うべき。インターネット等の情報で心配になることもあると思いますが、相談事があれば悩まず受診してください」と呼び掛けていました。

お仕事がんばってください!

勤労感謝の日を前に11月2日、木造西幼稚園（吉田節子園長）の園児が市役所を訪れ、「毎日のお仕事ご苦労様です。これからもお仕事がんばってくださいね」と市職員に感謝と励ましのメッセージを伝えました。

この日は、18人の園児がシクラメンの花や手作りのカレンダーなどを職員らにプレゼントした後、鍵盤ハーモニカの演奏と歌で「こぎつね」を元気いっぱい披露しました。

倉光副市長は「今日はどうもありがとう。皆さんや皆さんの家族のために一生懸命働きます。みんなも、風邪に負けないように元気に遊んで、元気に勉強してください」とお礼の言葉を述べました。



メッセージを伝える園児たち



喜びを報告した車力柔道少年団のメンバー

東北大会での健闘誓う

9月9日開催の第38回スポーツ少年団東北ブロック柔道交流大会県予選会（五戸中体育館）で、車力柔道少年団のメンバーが団体戦小学女子の部と同中学男子の部で優勝し、12月1日から開催される東北大会（仙台市）への切符を手に入れました。

小学女子の部は3人制、中学男子の部は5人制で行われた団体戦。どちらも安定した戦いで勝ち上がり、決勝戦を含む全4戦を制しました。

10月31日、メンバーは福島市長に喜びを報告。女子の大将・横山琉愛さん（稲垣小5年）は「一本で勝てる柔道をしたい」、主将の工藤大輝君（車力中2年）は「チーム全体で精いっぱいがんばってきます」と抱負を語りました。

木造丸山に平安時代の遺跡

木造丸山地区の土砂採取現場で、10世紀の小集落とみられる遺跡が見つかりました。遺跡名は「竹鼻（3）遺跡」（調査範囲約3,000㎡）。建物跡とみられる柱穴や土器などが多数出土し、土器の文様や製法から平安時代半ばのものと考えられています。11月4日に現地説明会が行われ、市民や考古学ファンら約20人が参加。市教育委員会の堀内学芸員は「この年代の集落遺跡の調査例は少なく、地域史を解明する上で貴重な情報となる。総合的に検証し、当時の様子を明らかにしていくことが今後の課題」としました。参加した古川瑠乃さん（木造高3年）は「土器の文様から年代や当時の地域間交流の様子までわかるのが興味深い」と話していました。



学芸員（左端）の説明を聞く参加者

健やか爽やか親子を表彰

11月8日、平成30年度西つがる学校保健会表彰式が松の館で開催され、日ごろから熱心に健康づくりや虫歯予防に取り組む西郡・つがる市管内の児童生徒と、それを支える保護者44組などが表彰されました。

表彰状の伝達の後には、受賞者を代表して5人の児童生徒が作文を発表。市内からは、鳴海姫莉さん（木造中3年）、葛西莉桜さん（穂波小6年）、白川桃花さん（向陽小2年）が登壇し、日々の生活で心がけていることや、健康に育ててくれた親への感謝の気持ちを堂々と語りました。白川さんは「おばあちゃんになっても20本の歯を残せるように、歯を大切にしていきたいです」と話していました。



親子で表彰を受ける出席者



福祉への思いを発表する生徒。(右は手話通訳者)

ひとり一人を大切にしまちづくり

11月10日、第14回つがる市社会福祉大会が松の館で開催され、約300人の市民らが福祉のまちづくりについて考えました。

児童生徒による「福祉の作文」発表では、市内の小中学校から6人が登壇。自ら考えた「福祉」という言葉の意味や思いやり支え合うこと大切さなど、体験を通じて考えたことを来場者に伝えました。

式典では、市社会福祉協議会の平川満昭会長が「関係機関との連携を密にし、みんなで支え合う地域づくりを目指して各種事業に取り組んでいく」とあいさつ。続いて、地域福祉の向上などに貢献した17人、11団体に対し、平川会長から表彰状および感謝状が伝達されました。

館岡子ども会が救命救急体験

大湯町コミュニティ消防センターで11月18日、館岡子ども会（越後谷浩会長）のメンバーが119番のかけ方やAEDを使った救命処置体験をしました。

参加した親子は、市消防本部の消防士から119番の正しいかけ方と、心肺蘇生法やAEDの取り扱い方の説明を受けた後、人形を使って体験。参加した野呂柚紀さん（瑞穂小5年）は「心臓マッサージは硬くて難しかった。いざという時、すぐに電話を持っている人に教えたい」と振り返りました。越後谷会長は「それぞれ職場で体験する人もいるが、農家や高齢者が多いこの地域にとっては貴重な経験。特に子ども達が小さいうちから経験することはとても意味があると思う」と話していました。



人形で心肺蘇生法を体験する子どもたち



報告に訪れた中心メンバーの3人。左2人目から小見山莉奈さん、藤田瑛晋君、秋元乃愛さん

稲垣小が3年連続最優秀 小学生雑紙回収チャレンジ

県が主催する「小学生雑紙回収チャレンジ」で、稲垣小学校（三上高弘校長）が3年連続で最優秀校に選ばれました。

資源ごみの回収やリサイクルに対する意識を高めてもらおうと、夏休み期間に各家庭から出る雑紙を回収する事業。4年目となる今年は、県内の全小学校で合計24.2トン回収し、中でも全校児童141人で取り組んだ稲垣小は、県内トップとなる児童一人当たり9.7kgを集めました。11月20日、三上校長と児童らが福島市長に受賞を報告。児童らは「意識しなくても自然に分別できるようになった」と話し、三上校長は「夏休みだけでなく、通年で分別の意識が地域に根付いています。『リサイクルのまち稲垣』ですね」と地域ぐるみの活動を報告しました。